

日韓のポータルサイトデザインに関する研究

A Study on portal site design between Japan And Korea

申 佳英 Kayoung Shin

早稲田大学大学院人間科学研究科

Graduate School of Human Sciences, Waseda Univ.

齋藤 美穂 Miho Saito

早稲田大学 人間科学術院

Faculty of Human Sciences, Waseda Univ.

- ・キーワード：ポータルサイト・ウェブデザイン・日韓比較
- ・Key-word：Portal site, Web design, Japan & Korea

1) はじめに

ポータルサイト (Portal site) とは、インターネットに接続するためブラウザを起動すると最初に表示されるサイトのことであり¹⁾ インターネットを利用する誰もがその対象となっている。最近では日韓共通のポータルサイトが日々増加しており、その成功の鍵としては、何より、利用者ニーズに合わせたサービスの提供が挙げられる。そのため、例えばグローバルサイトの場合、同じサイトであっても言語を翻訳するだけではなく、その国に合わせたサイト作りがなされなければならない。

そのような現状に答えるため、既報²⁾の結果よりここでは現在日韓両国において主なターゲット層とされている 20 代を対象としてポータルサイトデザインに関する嗜好傾向を調査し、またその結果を日韓の既存のポータルサイトと比較することによって、利用者の理想と既存サイトという現実のズレや親近性がもたらす影響力について調べることにした。

2) 調査方法

2-1) 調査Ⅰ (表 1 上段を参照)

- ・対象：日韓の大学生 計 127 名
- ・大学所在地：日本は東京近郊、韓国はソウル
- ・調査と分析：ポータルサイトデザインの嗜好に関する質問紙調査 (3 段階もしくは 4 段階評価、性別と国籍を要因として分散分析)

2-2) 調査Ⅱ (表 1 下段を参照)

- ・刺激：同日同時時間帯の日韓ポータルサイトのトップページ計 18 社 (調査Ⅰで使用頻度が高いとされたサイトを実際の利用率ランキングを加えて両国各 9 社の標本を検出)
- ・調査方法：Adobe photoshop7.0 と色彩分析ソフトで配色 (背景色・文字色など) と白の面積比、文字の大きさなどを測定し、イメージ量や広告数を数えた。トップページは初期画面 (1024×768 ピクセル) のみを調査対象とし、スクロールを要する画面は対象外とした。

表 1. 調査Ⅰ、Ⅱのプロファイル

調査項目		日 本	韓 国
調査Ⅰ	被験者 (人数)	男 : 32、女 : 31	男 : 30、女 : 34
	インターネットの平均使用層	平均 5.4 年	平均 5.9 年
	平均使用時間	毎日 1~2 時間	毎日 2 時間以上
	現在利用中のポータルサイトの満足度 (百分率)	平均 92%	平均 82%
調査Ⅱ	OS、ブラウザ	Window XP、Explorer6.0	
	モニタ	・種類: NEC F15T61 (32 ビット) ・画像度: 1024×768 ピクセル	

3) 調査Ⅰの結果；ユーザ嗜好について

最初にポータルサイトで重要な「情報の質」「情報の量」「デザイン」の 3 要素に対して調査した結果、日本では「1 位：情報の量、2 位：情報の質、3 位：デザイン」、韓国では「1 位：情報の質、2 位：情報の量、3 位：デザイン」の順位で重視していることが分かった。次に、表 2 より日韓利用者におけるサイト構成要素の嗜好に関する調査では、「余白の量」「文字と背景色の配色」の 2 項目に対して日韓で異なる結果が得られた。

まず、「余白の量」について日本の男女と韓国の女性はより多い方を選択、韓国男性だけはより少ない方を選好した。この結果を性別と国籍を要因として分散分析したところ、交互作用は有意傾向を示し ($F(1, 123) = 3.397, p < .10$)、国籍の主効果も有意である ($F(1, 123) = 5.653, p < .05$) と認められた。また、「文字と背景色の配色」の項目では、日本の利用者は強い対比を好んだのに対し韓国の利用者は中ぐらいの対比を選好した。この項目も国籍を要因として分散分析した結果、主効果が有意であることが認められた ($F(1, 123) = 13.452, p < .01$)。

その他、「文字の大きさ：より大きいサイズ」「写真とイメージ量：より多い方」「背景色：薄い方」「レイアウト：左と上の方がナビゲーションとして構成されているレイアウト」が日韓で共通して好まれていたことが分かった。性別と国籍を要因として分散分析を行ったところ、「写真とイメージの量」のみ交互作用が有意傾向 ($F(1, 123) = 3.429, p < .10$) を示した。これは、日本は女性の方がより多い量を選んでいるのに対し韓国では男性の方がより多い量を選んでいることを意味する。

4) 調査Ⅱの結果；既存ポータルサイトの検討

まず、「文字と背景色の配色」の項目から見ると韓国の方が多様な傾向を示していることが分かる(表2)。図1は日本の主な文字色である青と韓国の主な文字色である灰色の構成比を示している。日本で最も使われている青は#0000FFであり、青を使っている8社の内6社がこの色を使用している。韓国サイトでは、8社が主な文字色として灰を取り入れており、特に#666666は6社で使っている。青の場合では、日本より濃い青であることが分かる。文字色と国籍を属性としてカイ2乗検定を行った結果、

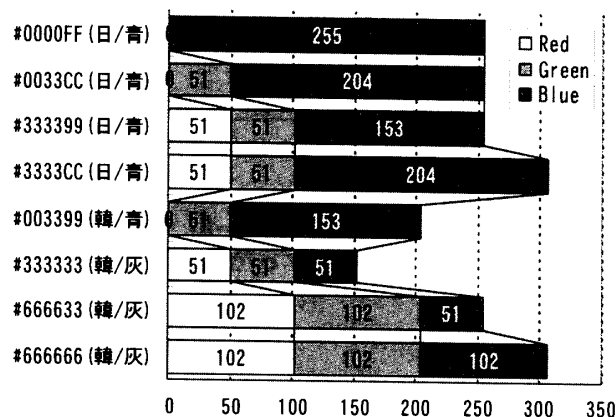


図1. 日本と韓国の文字色分析表(国/色)

※RGBの最大値(255, 255, 255)は白(#FFFFFF)、最小値(0, 0, 0)は黒(#000000)になるため、図1の値が低いほど濃い色になる。

有意であると認められた($\chi^2(4) = 10.128, p < .05$)。次に「写真とイメージの量」項目では、韓国が日本よりかなり量が多いことが分かった。トップページの写真及びイメージはアニメーション効果(Flash image や GIF animation など)で頻繁に変わる。韓国側は画面の全般的な印象及び色彩イメージをバランス良く保つため、文字に灰色を多く使用していると推測される。その他の項目では日本と韓国のサイトでほぼ同じ傾向であった。

表2. 調査Ⅰ、Ⅱの総合結果

項目	利用者の嗜好調査結果		既存のポータルサイトの調査結果	
	日本	韓国	日本(9社)	韓国(9社)
文字の大きさ	(日韓共に) より大きい		11ポイント: 8社、 13ポイント: 1社	11ポイント: 9社
写真とイメージの量	(日韓共に) より多い		平均 4.67 個 (最高 9、最低 2 個、標準偏差 2.45)	平均 10.33 個 (最高 13、最低 7 個、標準偏差 2.24)
余白の量	より多い	男: より少ない 女: より多い	サイト中の白の面積比: 55.03% (最高 71.41% 最低 29.07% 標準偏差 15.81)	サイト中の白の面積比: 55.69% (最高 64.34% 最低 33.88% 標準偏差 9.39)
文字と背景色の配色※注2	強い対比	中位の対比	青×白: 8社、黒×白: 1社	灰×白: 5社、灰・青×白: 2社 青×白: 1社、黒・灰×白: 1社
背景色	(日韓共に) より薄い色		白: 18社※注3	
レイアウト※注4	(日韓共に) 上と左		1位: 上と右 (日: 4社、韓: 4社、計 8社)	

※注1: 日韓差がある部分のみゴシック表記

※注2: 文字色×背景色

※注3: 背景色は本文のメインカラーに限定し、ディレクトリやナビゲーション部分は除く

※注4: ナビゲーションの位置のみを表示、スクロールを要する下段部分は調査対象外

5) 総合考察

ポータルサイトはハイパーテキストで構成されており、特にトップページは文字やイメージが見出しのリンクになっている場合が多い。一般的に文字は青色がリンク表示として既定値になっているため、Web デザインの際、勝手に変更しないことになっている。日本のサイトはそれを忠実に再現しているのに対し、韓国のサイトではリンクにも灰色の使用頻度が高かった。

図1より文字色だけを比較して見るとRGB合計の平均値が韓国(265.2)より日本(260.0)がやや低い。そのため、日本の方が韓国より強対比になっていると考えられる。それは「日本の利用者は強対比、韓国の利用者は中対比」を望んでいる調査Ⅰの結果と類似しており、このことは、親近性の高いポータルサイトデザインが利用者の嗜好に影響を与えることを示唆するものである。

結果的に、「レイアウト(調査Ⅱの結果: 上と左にナビゲーションのレイアウトは日本3社で2位、韓国1社で3位)」以外の部分では現実(既存のサイト)と理想(嗜好調査)の間でズレは見当らず、満足度(表1)も高いことから、日本のサイトは日本の利用者に、韓国のサイトは韓国の利用者のニーズに合っていると考察出来る。その他、調査Ⅰの「余白の量」について日本人はより多い方を選好していることから、9社中8社が本文以外の余白に広告が載っている韓国のサイト(韓国: 平均 1.33 個、日本 0 個)は日本進出の際、余白に記載する広告イメージの数を検討する必要がある。

※参考文献

- 1) 茂松山美子・佐藤理・菊田泰代: ポータル構築ツールと構築事例、情報の科学と技術、51巻9号、467~472、2001
- 2) 申佳英・齋藤美穂: Web デザインの最適な色彩計画(1) 日本色彩学会誌 Vol. 27、pp 80-81、2003
- 3) 池谷義紀: Web デザインユーザビリティ、ソフトバンクパブリッシング、2003
- 4) 日本色彩研究所(財)編: デジタル色彩マニュアル、凸版印刷、2004